加藤神社

肥後（熊本）藩初代藩主、加藤清正（1562-1611）は、ここ加藤神社に神として祀られています。実際のお墓は、市の西部にある本妙寺に位置しています。

毎年正月には、地元で「清正公さん」と呼ばれている神様にご利益を祈願するため、3日間で約40万人の人々が加藤神社を参拝します。清正は、1588年から熊本の北半分、1600年からは熊本全域の領主となりました。大規模な治水事業を行い、地元の川を治め、安全で肥沃な土地にし、現在の熊本の礎を築きました。

大工と戦士のための神様

加藤清正は、建築家や大工から尊敬されており、その土木・建築の才能を称えられています。清正は、朝鮮出兵（1592-1598）においても、徳川幕府（1603-1867）樹立への転換点となった1600年の関ヶ原の戦いにおいても負け知らずであり、日本では剣道や野球などの競技をする人々の間で有名です。また、加藤が「勝とう」の同音異義語であることから、人々は清正に病気の克服や難関校の合格などのご利益を祈願します。

加藤神社は、約150年の歴史の中で何度も移転を繰り返してきました。創建されたのは1871年、武家支配が終わり、明治新政府が誕生して間もない頃のことです。錦山神社と呼ばれ、両天守と宇都櫓の間の城の中心部に位置していました。1874年には、帝国陸軍の師団が城内に進駐したことを受け、参拝する民間人が基地に入らずに済むように、城郭の北東にある京町に移転しました。1884年の火災で焼失した後、再建され、加藤神社と改称されました。主要な道路の新設に伴い、1962年には再び遷宮を余儀なくされました。この時は、元の場所のすぐ北側にある城郭建築群の場所に戻って来ることになりました。櫓方門は、その場所を確保するために移転されました。新しい神社は火災の危険性を最小限に抑えるためにコンクリートで作られており、2016年の地震でも被害はほとんどありませんでした。

家臣を称える

神社からは2つの天守閣の眺めが素敵です。境内には加藤清正が植えたといわれる銀杏の古木や、清正が朝鮮から持ち帰ったという石橋があります。この石橋を渡ると、人生の道のりにおいて成功する確率が高まると言われています。加藤神社には、1611年に主君の清正が亡くなった際に忠誠を誓って自害した家臣のうちの二人も祀られています。この二人とは、朝鮮出兵の際に清正が連れ帰り、会計を任された韓人金官と、大木兼好です。